

社団法人私立大学情報教育協会
平成 29 年度第 2 回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 29 年 4 月 27 日 (木) 午前 18 時 30 分から 20 時 45 分まで
II. 場所 : 私情協事務局
III. 出席者 : 高橋理事、真鍋委員長、井上委員、今井委員、高木委員、竹内委員
井端事務局長、森下、中村

IV. 資料

- ① 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 (案)
② ICT 活用事例 (現在・将来)
③ 特色ある事例、原稿依頼について

V. 議事内容

1. 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 (案) について

第 1 回委員会で検討した内容について確認し改めて見直しと修正を行った。

主な見直し、修正は以下の通り

(1) 分野別の回答表について

- ・ 太字・斜線の数字の意味が分かりにくいので表の上部に「太字・斜線は平均以上」と記入することにした。
- ・ 分野別の回答表の中の数字について、解析説明と一致させるため、以下の部分に赤枠を入れる。
 - * アクティブ・ラーニング (AL) を実施する目的は以下の 2 か所
「知識を活用・創造し、問題発見・課題探求を目指した AL」の芸術系と教育系
「知識を活用・創造し、問題解決を目指した AL」の保健系と情報科学系
 - * アクティブ・ラーニング (AL) の実施内容では以下の 3 か所
「e ラーニングとの組合せ」の情報科学系
「地域連携・産学連携との組合せ」の社会科学系と芸術系
 - * アクティブ・ラーニング (AL) の教育効果では以下の 6 か所
「主体的に自分の考えを説明できる学生が増えた」の人文科学系、社会科学系、教育系、芸術系
「問題発見・解決を体験することで、実践力を身につけた学生が増えた」の生活・家政系、教育系、芸術系
 - * 組織的に教育改革を進める教学マネジメントに対する関与の仕方の 1 か所
「学士力と授業科目との関係性を明確にするため、シラバスの内容を関係教員間で相互に検討を始めている」の工学系
 - * 授業改善のための情報通信技術 (ICT) の活用状況の 1 ヶ所
「平成 25 年度調査増減 (ポイント) の総計
 - * 授業改善のための情報通信技術 (ICT) の活用状況の 3 ヶ所
「平成 25 年度調査増減 (ポイント) の総計
「現在の状況 (分野別回答)」の「ネット上に事前・事後の教材・課題、小テストなどを掲載し、e ラーニングで基礎知識の修得を行う」の情報科学系
「3 年先の計画 (分野別回答)」の「異分野の学生がネット上で知識を組合せ、発想・構想する分野横断によるフォーラム型の授業を行うと「優れた授業コンテンツを活用するために、MOOC 等を積極的に利用する」の総計欄

(2) 見直しと修正について

1. 教育現場での問題認識 (1) 学生の学修に関する問題

- * 回答数の変更(増加)集計結果を踏まえて、解析の数値を修正した。(_ の部分)
「主体性の欠如」では、3年前の大学 54.8%から 59.1%、短期大学 53.3%から 59.5%と
「基礎学力の不足」は、3年前の大学 40.5%から 39.0%、
「学修意欲の不足」は、3年前の大学 37.4%から 36.7%、短期大学 34.8%から 36.4%と

2. アクティブ・ラーニング (AL) に対する取り組み

(2) アクティブ・ラーニング (AL) を実施する目的 (表現を修正)

また、3割前後の教員が知識を活用・創造し、問題発見・課題探求を目指しており、さらに1割から2割未満の教員が知識を活用・創造し、問題解決を目指している。特に芸術系、教育系などでは、プロジェクトで実践的に体験させる問題発見・課題探求型ALの傾向が見られる。また、保健系、情報科学系などでは、答えが一つではない問題解決型ALの傾向が見られる。

(3) アクティブ・ラーニング (AL) の実施内容 (%の比較部分はポイントに修正)

情報科学系では大学・短期大学とも平均より10ポイント以上高くなっている。地域連携・産学連携との組み合わせは、約10%と少なく、一部の教員の実施に留まっているが、芸術系と社会科学系では大学で平均より8~10ポイント以上高くなっており、

(4) アクティブ・ラーニング (AL) の教育効果 (_ の表現を見直し修正)

3割強が問題発見・解決体験を通じて実践力を身につけた学生が増えたとしており、主体的に考え行動するコンピテンシーの獲得に大きな効果があることが判明した。

特に、考察型学修では、人文・社会科学系で高い傾向が見られる。また、主体性の向上では、人文・社会科学系と教育系、芸術系に高い傾向が見られる。

実践力の修得では、芸術系、教育系、生活・家政系に高い傾向が見られる。

(6) アクティブ・ラーニング (AL) を推進・普及するための課題 (_ を見直し修正)

また、大学・短期大学とも2割前後の教員が、「グループ学修の教室・ICT機器などラーニング・コモンズの整備」、「反転授業やeラーニングの教材作成支援の整備」、「学修成果の評価方法を検討する体制の整備」、「教員のICT活用技術を支援する体制の整備」など、基盤的な学修環境としてICTを利活用できる仕組みや体制を課題してあげている。

3. 組織的に教育改革を進める教学マネジメントに対する関与の仕方 (_ を見直し修正)

教学マネジメントに関心を持っている。

学士力と授業の関係付けが意識されていることがうかがえる。

4. 授業改善のための情報通信技術 (ICT) の活用状況 (_ を見直し修正)

<授業改善のためにICTを活用している教員の割合>

授業改善のためにICTを活用している教員は、3年前より大学が約8.9ポイント増
解説本文(回答数の増加分を修正)

ネット上での分野横断フォーラム型授業の活用は、大学教員の 215名(2.4%)、短期大学教員の 8名(2.1%) と一部の教員に留まっているが、3年先には大学教員で約10倍の 2,300名、短期大学教員で14倍の 107名が計画している。授業コンテンツとしてのMOOCの活用は、大学教員の 269名(3.0%)、短期大学教員の 9名(2.1%) に留まっているが3年先には、大学・短期大学とも10倍以上の3割近くの 2,706名が計画している。

2. ICT活用事例(現在・将来)の検討について

ICT活用事例として、現在の授業で効果を上げている事例、将来の授業で顕著な効果を期待できる計画について検討を行い、第1次候補として、人文科学系7件、社会科学系6件、理学系3件、工学系15件、情報科学系15件、生活・家政系2件、教育・芸術・教養系12件を選定し、内容、効果、

受講生などを検討した。

検討の結果、現在の授業で顕著な効果を上げている事例としては、人文科学系3件、社会科学系3件、理学系3件、工学系4件、情報科学系3件、保健系5件、生活・家政系1件、教育系1件、教養系2件を紹介することにした。

また、将来の授業で顕著な効果を期待できる内容としては、社会科学系3件、理学系1件、工学系5件、情報科学系1件、保健系2件、教育系3件、教養系2件を紹介することにした。

3. 情報通信技術（ICT）を活用した授業の事例について

ICT活用事例の中から、現在の授業で効果を上げている事例を8件選定し、授業の概要、特色、実施効果について、400字程度の原稿にまとめていただき、紹介写真を2枚程度で掲載することにした。事例紹介の依頼は事務局で行い、委員会の内容精査はメール上で行うことにした。

4. 今後の予定

本日検討した「平成28年度私立大学教員の授業改善白書（案）」、「ICT活用事例（現在・将来）」、「特色ある事例」については5月10日までにメールで確認いただき、5月16日の理事会で報告する。理事会報告後に最終版を印刷し、5月31日の総会で最終報告を行う。

6月に最終版を加盟大学及び文部科学省、関連機関に発送し公表する。

5. 次回の委員会

本年度は情報環境字本調査が無いため第2回委員会で終了。

次回は平成30年度になる